

日本の主なくだものたち



くだものたちの特長

くだもの	主な産地	誕生秘話	おもしろポイント
みかんくん 	和歌山、愛媛、静岡、熊本、長崎、佐賀など <i>あたたかい地方</i>	およそ3000万年前ごろから、 インドのアッサム地方周辺や中国南部 にはえていたといわれている。多くの品種は、中国から日本に伝わったと考えられている。	ひらべったくて、皮の色がこく、ずっしり重いもの
りんごちゃん 	青森、長野、岩手、山形、秋田、福島など <i>寒い地方</i>	スイス地方 の古い遺跡から発見されたりんごの化石からおよそ4000年前には、りんごがさいばいされていたと考えられている。日本には、明治の初めごろ、アメリカから苗木が入ってきて、広くさいばいされるようになった。	ずっしり重く、指ではじくとしまった音がするもの
ももくん 	山梨、福島、長野、和歌山、山形、岡山など	中国 で生まれ、日本へは弥生時代のころに伝わったと考えられている。 <i>中華料理レストランの「ピーチ」のマークで有名!</i>	全体的に赤く色がまぶらなく、うぶ毛がそろっているもの
ぶどうちゃん 	山梨、長野、山形、岡山、福岡など	今からおよそ5000年~6000年前に カフカス地方 で生まれたり、 北アメリカ・カナダ で生まれたり、世界じゅうで多く生産されている。日本では、1186年に山梨県で「甲州」が発見され、さいばいが始まったといわれている。	じくが緑色で太く、皮に白い粉がふいていて、つぶに弾力が大きくそろっているもの
キウイクン 	愛媛、福岡、和歌山など	1906年に中国へやってきた ニュージーランド の学者が、チウコクカルナシという果樹を、自分の国へ持ち帰ったことから、キウイフルーツのさいばいが始まった。日本では、1970年代からさいばいされるようになり、世界の主な産地の1つになっている。	かたくてまんべんなく茶色で、皮にひしりもがはえていて、丸みのある重いもの
かきちゃん 	和歌山、奈良、福岡、岐阜、福島など	奈良時代に 中国 から伝わったと考えられている。 <i>初めはしぶがまだらけで、やがてあまがさが生まれたんだって!</i>	形が整っていて、へたがあざやかな緑色で、皮にワザとほりがあるもの
なしくん 	千葉、茨城、福島、鳥取、栃木など	弥生時代の遺跡から炭化した種子が出土している。 <i>大昔からヨーロッパ東部でさいばいされていた西洋なしもあるよ!</i>	ずっしり重く、皮にはりがあり、かたいもの

くだもの新聞

2012年
12月16日 曜日
発行者名
内田 奈那

Q. ももくんは初めは食べ物として伝わっていきなかったって本当?

A. 初めは花を見るための木として育てられていて、ぼくたちを食べるようになったのは平安時代の終わりごろから鎌倉時代にかけてといわれているんだ。

まとめ

わたしは、日本のくだものの特長などを知れて、今まで知らなかった事がとても分かりました。他にもどんな果物があるのか調べたくなりました。そして、もっとたくさんの果物を食べたくなりました。

くだものたちに聞いてみよう

Q. みかんくんは皮をむかなくてもふくろの数が分かるの?

A. ぼくのへたをとってうらを見ると、小さいつぶがあるよ。そのつぶの数がふくろの数になるんだ。

Q. りんごちゃんのみつって何?

A. 「ふじ」などのわたしたちを切ってみると、少し透明がかた、色のちがう部分があるの。そこがみつよ。

Q. ぶどうちゃんについている白い粉は、何?

A. これはブルームといって、わたしたちじたいが作り出す粉で、みずみずしさを保たず、病気から守ったりしているの。もちろん、食べても害はないわ。

